

「靈山」……かつて山岳仏教の拠点

その昔、本町の東部にそびえる靈山の峰々には山王21社を勧請し、ふもとは3,600にもおよぶ僧坊（建物）があったといい、大規模な山岳寺院が形成されたといわれます。以来、470年余の長い間、この地は東北山岳仏教の拠点として隆盛を極め、平泉の北奥文化に対して南奥文化の中心地として東北の一大文化圏を形成しました。

今となっては、当時の栄華を臨むことはできませんが、山中に残る礎石や遺跡から出土した県指定文化財の青磁皿、また、ふもとに再建された靈山寺の宝物などに、昔日の栄華の一端を垣間見ることができます。このことは、13～14世紀の間に靈山寺が栄えたことを裏付けるものであり、中国からの舶載品が、東奥の一山寺にもたらされていたことは、靈山寺が単なる山寺ではなく、中央あるいは鎌倉等と密接な関係があり、都にも知られた大寺院であったことを物語っています。（「靈山町史」「靈山寺縁起」などによる）



靈山寺（靈山城）復元画（梅宮茂原案・中西立太作）

靈山寺の変遷

- 538 仏教が日本に伝来
- 645 大化改新
- 859 円仁（慈覚大師）靈山寺を建立
- 984 靈山寺を古靈山より靈山（現在の靈山寺跡）に移転
- 1331 元徳供養石塔建立
- 1347 靈山城落城（靈山寺Ⅱ寺院城郭焼失（八月））
- 1401 伊達氏が靈山寺を大石村宮脇に再興
- 1532 伊達植宗より大石他七ヶ村靈山寺へ寄付される
- 1602 靈山寺（宮脇）野火により焼失
靈山寺を移転（倉波・現在の靈山寺）
- 1665 「靈山寺縁起」著わされる
- 1817 靈山碑建立

この年表は、「靈山町史」、「靈山寺縁起」及び靈山町史資料集第一集「靈山城跡・靈山寺跡」を参考として作成